

令和5年度 岡山県立笠岡商業高等学校 学校評価書

(A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	評価
				達成状況		達成状況		
1 日々の学習活動の充実 ○自ら学ぶ気持ちを育成し、学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる ○ゆうかりタイム、部活動、生徒会活動、社会貢献等、生徒が自信を持てる取組を進める ○図書館利用やタブレットの活用を推進し、読書の習慣や探究する楽しさを身に付けさせる 2 新時代を生き抜く社会基礎力の育成 ○5つの力を意識した自主的・主体的な活動を促進する ○失敗や挫折を恐れずに、高い目標（進路・検定）を持ち、最後まで挑戦する姿勢を育成する ○あいさつの励行や言葉遣い、時間管理や健康管理、法令遵守について高い意識を持たせる	教務	・新教育課程1年目の学習評価の方法を振り返り、シラバスや評価シート、観点別評価の基準、総括方法等の見直しを行い、改善すべき点があれば改善する。 ・授業や観点別評価についての実践例を共有する機会を増やし、授業改善の取り組みを進める。	・シラバス、評価シート、観点別評価の基準や総括方法の見直しが行われ、次年度に向けて様式の改善や内規の改定が行われている。	・6月の授業公開期間には公開授業を7回実施した。同じ時期に教育実習も行われたこともあり、授業見学の機会が多く、活発な意見交換を行うことができた。ただし、実践報告等の研修会を行うことはできなかった。11月の授業公開期間では研修会を開催予定である。また、初任者研修の研修授業が実施されるので、その際にも意見交換会を場を設定する。 ・次年度へ向けたシラバス、評価シート、観点別評価の方法の見直しについては、現在検討中である。	B	・新学習指導要領下における学習評価のための実践例や観点別段階評価及び評定の算出方法について共有し、教科での評価方法の検討を呼びかけた。シラバスや評価シートの見直しを行い、少しずつ改善を行っている。引き続き、改善に向けた検討を進める。 ・6月と11月の授業公開期間で0JTチームごとに公開授業を実施し、授業見学や意見交換を行うことができた。また、11月には外部から講師を招いて研修会を開催し、授業でタブレットを活用するための基本事項や実践例について研修した。	A	
	生活指導	・生徒会、委員会活動の活性化 ・校則の周知と自己管理能力の育成	学校自己評価アンケート(生徒用) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。98%以上。(前年度97.1%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。97%以上。(前年度96.8%)	・生徒は自分の持ち場でできること、やりたいことを精一杯やろうとしている。 ・普段の授業、集会など時間を意識した行動が概ねできている。	B	学校自己評価アンケート(生徒用) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。97%。(目標98%以上) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。97%。(目標97%以上) などわずかに昨年度より下げている。さらに帰属意識を高めたい。	B	
	進路指導	・将来の地元地域への貢献を見据えた進路指導を行い、自己の進路目標を明確にさせる。 ・学ぶことの重要性を理解し、自学自習の習慣化や面接練習への自主的、主体的かつ計画的な取り組みを促す。 ・笠商手帳(スケジュール帳)を活用させ、先を見通した自己管理能力を身に付けさせる。自分の履歴を残すことで、PDCAを実践する。 ・学校行事や地域のイベントへ参加することで経験値を高める。	・3点学習の自主的な提出率80% ・笠商手帳(スケジュール帳)の利用率90%以上 ・面接練習を一人11回以上実施。	・例年と比べて3点学習は、初期にはほぼ100%の提出率であったが、次第に提出率は低下して70%程度になった。 ・笠商手帳の利用頻度は増えている。しかし、それを自発的、効果的に活用しているかは疑問である。 ・就職、進学ともに面接練習はよくできていると思う。関係の薄い人との練習の中で、自分の考えが伝わっているか確認しながら練習してほしい。 ・社会人としての振る舞いができることもコミュニケーションであることを知らせたい。 ・生徒の求職行動は、生徒自らWeb上を閲覧し取得することで、積極的な活動が見られた。 ・夏季休業中の公務員試験案内等の情報も生徒タブレットにその都度配信し、情報提供に努めた。	B	・3点学習の取り組み状況を見ると、自己の能力を高めようとする生徒とそうでない生徒の2極化が見られた。志望校への入学だけが目的ではなく将来の学習に備えた地盤づくりであることを意識させたい。 ・笠商手帳を活用する場面を意図的に増やし、アナログ的な手帳の存在を意図づけたい。手帳の手軽さ・利便性を活かした場面に応じた使い分けを推進したい。 ・進学、就職共に選ばなければ結果が出せる状況にあり、自分の力のできる範囲で収めようとしている。「もう少し…」という意識を持って一歩前に踏み出す姿勢を身に付けさせたい。日々の学習や面接練習もしない生徒はいないが、10回を超えて面接練習する生徒は少なくなっている。試験のためだけの練習にとどまらず、社会人として対人関係を円滑にするトレーニングとする取り組みを促したい。	B	
	総務	○広報活動の効率化と充実化を図り、笠商の魅力をしっかり発信する。 ①新鮮な情報をタイムリーに発信する。 ・ホームページ、Facebookの迅速な更新。 ・携帯・スマートフォンの表示に対応したホームページへの更新。本年度秋まで ②生徒(広報委員、笠レンジャー)の活動を活性化し、5つの力を育成し生徒の人間力向上を促進する。 【5つの力(つながる力 考える力 創造する力 地域を愛する力(心) 人のために動ける力)】 ・広報委員主導のもと、広報誌「笠商NOW」を発行し、素材を収集し、広報誌を制作する中で学校の魅力を知るきっかけを作るとともに生徒自身の責任感を育てる。 笠商NOW発行(年5回) ・5月下旬(入学式、新入生歓迎会、白石島研修、1日研修) ・6月下旬(県総体、商業実務競技大会結果報告、OS案内) ・10月(二大行事) ・11月(商業実務競技大会、生徒会役員選挙) ・1月(修学旅行) ②Classroomで校内外のボランティアの案内を行い、笠レンジャーを始めとする生徒を積極的に参加させ、活躍の場を提供する。	①すべての部活動ページの更新 ①学校自己評価(保護者用)「本校のホームページを見ることある。」70%以上【前年度67.2%】 ①学校自己評価(保護者用)「本校のSNS(Facebook等)を見ることある。」40%以上【前年度29.8%】 ②岡岡市内県立3校のボランティア活動への参加 ・広報委員、笠レンジャーのアンケート「広報活動が自分を成長させるきっかけになった」85%以上 ・学校自己評価(生徒用)「本校には、他の学校に誇れる特色がある。」93%以上【前年度92.7%】	① ・ホームページ更新回数は59回(R5.9月19日現在)と昨年度よりも減少。Instagramを用いた投稿は53件実施。 ・現行のホームページでは、更新の呼びかけ(更新が難しいようなら資料の提出)を行った。すべての部活動ページの更新ができていない。 (ワープロ、商業美術部、書道部、卓球部、R3から未実施:茶道部、柔道部、バレーボール部(女子)) ホームページリニューアル後は更新についての講習会を開催する。 ・11月ホームページリニューアルに向けて準備を進める(進捗状況は、笠岡商業教員クラス(classroom)で掲載し、情報を共有) ② ・笠商NOWの発行については、広報委員主導で予定どおり発行。 ・笠レンジャーの登録者数は159名と大幅に増加(昨年度比1.5倍)。 ・社会貢献をしたい生徒、社会貢献をさせたい担任の思いから増加。 ・9月19日現在、笠岡市内外からボランティアの要請に対して100のボランティアをclassroomで呼びかけ、のべ58名が参加。参加者は、感謝の言葉を通して自己肯定感を高めつつ、積極的なコミュニケーションの大切さを学んでいる。 ・8月のオープンスクールでは延べ170人以上の笠レンジャーが参加し、中学生に対して在校生の素晴らしさを発信することができた。 ・広報委員・笠レンジャーへのアンケートは2学期末に実施予定。	A	① ・ホームページのリニューアルは予定よりも遅くなったが2学期終業式に実施。操作方法の変更もあるため、総務課内でブログ等の操作方法を共有した。3学期に研修会を実施予定。 ・1月30日現在104回のホームページ更新を行う。(昨年度比0.65倍) Instagram35件投稿。情報発信としては昨年度比1.6倍。学校自己評価(保護者用)「本校のホームページを見ることある。」は61.6%と昨年度よりも低くなってしまったが、「本校のSNS(Facebook等)を見ることある。」は60.9%と達成基準を大きく超えた。 ② ・1月30日現在 笠商NOW4回発行、第5号は日程調整ができず当初の計画から変更し卒業式について取り上げる予定であったが、卒業式以降の生徒の登校日を考えると難しいため、第5号は発行しない方向で調整している。 ・笠レンジャーの活動では、オープンスクール補助員や出身中学校への広報誌の持参など活躍の場を提供。行事前にアンケートを行い、希望を確認した上で取り組ませた。校外でのボランティアでは、笠岡市からの要請が増加し、23件のボランティアに参加。笠レンジャーへのアンケートでは、89%の生徒が「広報活動が自分を成長させるきっかけになった」と回答し、中学生・地域の方々と触れあうことでコミュニケーション能力、協調性等の5つの力を向上させることができた。	A	B
	1年団	学年目標 礼・笑顔・挨拶・挑戦 ・最初の礼と最後の礼を大切に相手に敬意を示す。 ・笑顔を絶やさず信頼を得る。 ・さわやかな挨拶をし、多くの人とのコミュニケーションをスタートさせる。 ・後ろを向かず、前を向いて何事にも挑戦する態度を養成する。 ・家庭学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる。 ・部活動100%加入を目指す。生徒会活動、社会貢献活動、地域学(地域の公共施設見学・校外活動)を通して、自主性を育てるよう指導する。 ・タブレット・笠商手帳の活用、読書を推進したり、図書館利用を促進する。	・学校に行くのが楽しい(90%以上)。 ・自主的・主体的に学習に取り組むことができた(90%以上)。 ・学校行事に自主的に参加し、達成感を得ることができた(95%以上)。 ・部活動で自主的に活発に活動できた(90%以上)。 ・ICT活用で学習に主体的に取り組めた(90%以上)。	学年生活アンケート(10月実施)より ・学校生活が楽しい(100%) ・授業に自主的・主体的に取り組むことができて(97%) ・学校行事(白石島研修・2大行事)に自主的に参加できている。(99%) ・部活動を自主的に活動できている(98%) ・タブレットの利用がよくできている(97%)	A	学年生活アンケート(1月実施)より ・学校生活が楽しい(100%) ・授業に自主的・主体的に取り組むことができて(99%) ・学校行事(白石島研修・2大行事)に自主的に参加できている。(99%) ・部活動を自主的に活動できている(94%) ・タブレットの利用がよくできている(99%)	A	
	2年団	学年目標「スマイル・チャレンジ・チームワーク」 ・基本的生活習慣を確立させる。 時間の4点固定(①起床時間 ②朝、家を出る時間 ③家庭学習を始める時間 ④就寝時間)に取り組ませる。 ・学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる。 ・総合的な探究の時間(ゆうかりタイム)、部活動、生徒会活動、社会貢献活動など、生徒が自信を持って取り組みを進めることができるよう指導する。 ・図書館利用やタブレットの活用を推進する。	学年生活アンケートを毎学期に実施し、その回答結果について、 ・学校に行くのが楽しい・・・(100%) ・時間の「4点固定」ができている・・・(90%以上) ・スケジュール手帳(笠商手帳)を活用している・・・(80%以上) ・家庭学習の時間が1時間以上である・・・(75%以上) ・体育祭・文化祭で積極的に活動できている・・・(95%以上) ・部活動で感動や充実感を得ている・・・(80%以上) ・進路実現に向けて具体的に取り組んでいる・・・(60%以上) ・学習活動でタブレットを活用している・・・(100%)	学年生活アンケートを10月に実施(文化祭・体育祭終了後) ・文化祭・体育祭で積極的に活動し、感動や達成感を得た。(98%) ・部活動をおとして感動や充実感を得ている。(82.5%) ・地域や学校が主催するボランティア活動に参加した。(66%) ・スケジュール手帳(笠商手帳)を活用している。(62%) ・進路に対する目標を決めている。(83%) ・進路実現に向けて具体的に取り組んでいる。(47%) ・毎日、家庭学習に取り組んでいる。(81%) ・課題はきちんと提出できている。(83%)	B	学年生活アンケートを1月に実施(全商簿記実務検定の週) 1)基本的生活習慣を確立させる(時間の4点固定) ①起床時間(70%) ②朝、家を出る時間(77%) ③家庭学習を始める時間(7%) ④就寝時間(28%) 2)毎日、家庭学習に取り組んでいる。(88%) 3)課題はきちんと提出できている。(79%) 4)進路実現に向けて具体的に取り組んでいる。(49%) 5)タブレットを学習活動で活用できている。(84%) 6)部活動をおとして感動や充実感を得ている。(78%) 7)地域や学校が主催するボランティア活動に参加した。(66%)	B	
	3年団	学年目標「課題解決力を身につける」 ・進路実現をはじめ、学校行事など高校生活で「課題解決のために自ら多くの情報・アドバイスを求め、考えて判断して、行動する」ことを意識させる。 ・自己管理能力を伸ばすために、タブレットと笠商手帳の活用を促進する。タブレットで情報を得て笠商手帳でメモをし、情報を自己管理し、自らの目標に向かって行動させる。 ・気持ちの良いあいさつを推奨する。	・自らの課題解決のために自ら多くの情報・アドバイスを求め、考えて判断して、行動できた者の割合が90%以上。 ・自己管理能力を伸ばすために、タブレットと笠商手帳を利用できた者の割合85%以上。 ・学校行事に主体的に参加し、達成感を得た者の割合95%以上 ・気持ちの良いあいさつができた者の割合が90%以上。	学年生活アンケート(10月実施)より ・進路実現のために自ら多くの情報・アドバイスを求め、考えて判断して、行動できた(ている)者の割合が96%。 ・自己管理能力を伸ばすために、タブレット、笠商手帳を利用できた者の割合90%。 ・学校行事に主体的に参加し、達成感を得た者の割合97%。 ・気持ちの良いあいさつができた者の割合が97%。	A	・進路実現のために自ら多くの情報・アドバイスを求め、考えて判断して行動できた結果、全員が自分の進路を主体的に決定した。 ・全クラスの担任が、毎朝クラスルームで連絡事項を伝えており、タブレット利用による自己管理を促進した。 ・学校自己評価アンケート「学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。」は98.1%であった。 ・学校自己評価アンケート「自分は、挨拶・マナー・言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付いてきている。」が97.2%であった。	A	
	商業科	・新時代を生き抜くためにDX人材を教職員・生徒ともに意識して、課題解決のために、ICT機器を利用して、創造的に解決する力(資質・能力)を身に付けさせる。 ・笠商学習支援サイトを有効に活用し、自主的な家庭学習を定着させ、商業についての基本的な知識・技術を確実に身に付けさせる。 ・5つの力を意識した(特に意識させる)自主的・主体的な活動の促進。	・学校自己評価アンケートの「本校では、時代に即したビジネス教育を受ける機会がある」を95%以上(生徒割合昨年度91%) ・5つの力に基づいた生徒の割合①つながる力70%以上、②考える力80%以上、③60%以上、④地域を愛する力70%以上、⑤人のために動ける力75%以上(昨年度3年生①60.6%②78.0%③53.2%④47.7%⑤72.5%)	5つの力について1年生を対象にアンケートを実施、「身に付いている」と「どちらかと言えば身に付いている」を回答した生徒の割合は、①つながる力95.8%、②考える力94.1%、③創造する力88.1%、④地域を愛する力84.7%、⑤人のために動ける力94.1%(昨年度3年生①60.6%②78.0%③53.2%④47.7%⑤72.5%)であった。傾向として③の創造する力と④の地域を愛する力の割合が低い。特に「地域を愛する力」については、地域行事を増やしているが、さらに知る必要があると感じた。また、1年生であるので、今後に期待したい。	B	学校自己評価アンケートの「本校では、時代に即したビジネス教育を受けられる機会がある」を95%以上(生徒割合昨年度93.1%)に対して、94.6%であった。このことは、新学習指導要領のもと、学科もビジネス情報科になり、新たに学校設定科目「情報コミュニケーション」が開設された中で1年次からビジネスとDXについて意識して取り組まれていることや外部講師による講演が変わり、生徒たちの意識が変わってきているように思える。しかし、内部の割合が減ってしまった。このことから先生方への内部PRが足りないと感じた。ビジネスを学んでいる内容などを、外部発信はもちろんであるが、内部にも遠慮せずにきちんと発信していきたい。	B	

	<p>教務</p> <p>共有資料の電子データ化や採点システムの活用を推進し、業務の効率化を図る。 ・採点システムが1学期中に本格的に運用できるよう、システムの設定や運用上のルール整備を行う。 ・採点システムの活用を促進するため、小規模の研修会を実施する。</p>	<p>・採点システム「百問繚乱」が活用され、業務の効率化が進んでいる。 ・職員会議資料や校内で共有できる資料の電子データ化が進み、情報共有が効果的に行われている。</p>	<p>・1学期中間考査から採点システム「百問繚乱」の使用を開始した。活用している教員はまだ限られているが、ほとんどの教科で活用されている。2学期中間考査後にアンケートを実施し、使用する上での問題点や改善点等を確認し、校内の活用を推進する。 ・電子データによる情報共有は順調に進んでいる。</p>	<p>B</p> <p>・採点システム「百問繚乱」の活用状況についてのアンケートを実施した。ほとんどの教科(商業科・保健体育科以外)で活用されており、活用した教員からは3～5割程度の時間削減ができたとの声が聞かれた。また、活用していない教員も含めて、来年度の活用に対して肯定的な回答が多かった。 ・電子データによる情報共有は順調に進めることができた。</p>
	<p>生指導</p> <p>・生徒会、委員会活動の活性化 ・いじめや生徒の悩みを早期発見・早期対応ができる体制作り。 ・部活動ガイドラインの遵守</p>	<p>学校自己評価アンケート(生徒用) ・地域活性化やボランティア等、地域に向向いての活動に参加している。55%以上。(前年度51.8%) 学校自己評価アンケート(教職員用) ・あなたは、特別支援教育に対する理解を深めている。90%以上(前年度88.9%) ・あなたは、所属部活動が活発になるように工夫し、支援している。95%以上(前年度94.4%)</p>	<p>・二大行事では、1年の展示、2年の販売実習、3年のアトラクションなど、新しい伝統の創成に向け工夫し良いものができた。</p>	<p>B</p> <p>学校自己評価アンケート(生徒用) ・地域活性化やボランティア等、地域に向向いての活動に参加している。54%。(目標55%以上) 学校自己評価アンケート(教職員用) ・あなたは、特別支援教育に対する理解を深めている。95.7%(目標90%以上) ・あなたは、所属部活動が活発になるように工夫し、支援している。95.7%(前年度94.4%)</p>
	<p>進路指導</p> <p>・地域の企業の訪問や卒業生や地域の人による講演会により、就職や進学の進路意識の高揚と進路実現に活かす。 ・学年回と担任・進路コーチとの連携を図り、生徒との面談を多く実施することにより、生徒理解と希望する進路実現を目指す。 ・内定後から入社に向けて、上級学校卒業後の進路職業意識の高揚を図る。</p>	<p>・1年、2年では進路意識を高め、3年では進路の目標を決定し、目標達成に活かす。 ・国公立と難関私立大への進学者が10名(2桁)を超える。 ・就職一次希望内定者が100%。</p>	<p>・卒業生の声を聞く会を実施(講師:5名、全学年対象:6月) ・インターンシップ(2年生の希望者を対象54名参加:25事業所) ・進路ガイダンス(3年生:6月、2年生:10月、1年生:11月) ・就職希望者17/20名内定、公務員希望者中4/5名1次試験合格 ・企業職業ガイダンス(1年生12月) ・就職求人情報がタブレットやスマホから閲覧できるシステムを導入し、求人票公開までの作業が省力化できた。</p>	<p>B</p> <p>・学年に応じた内容でのガイダンス、企業説明会を行い進路意識の高揚をはかったが、下学年で進路目標の設定している割合は生徒、保護者共に低い。3年生(2学期後半からは2年生も)には求人票受付閲覧サイトにより求人情報の提供により、家庭での対話が可能な環境を設定した。 ・先輩の進路活動を参考にする生徒が多く、在校生だけでなく外部の方々の講演などの回数を増やしたい。 ・4大:岡山(夜)山口(3)香川(1)尾道(1)名桜(1) ・就職:希望者23名全員内定、公務員(4)</p>
<p>3 地域に信頼される学校づくりの推進 ○ 中学校(生徒・保護者・教員)へのPR活動および連携の強化を図る ○ 笠岡コンソーシアムによる学校と地域の魅力づくりを推進する</p> <p>4 協働する教職員組織の構築 ○ 授業改善(知識の活用、タブレットの活用)、教育相談や支援、進路意識の高揚を図る ○ 業務の標準化と精選、業務の効率化と環境整備、部活動の計画的実施、意識改革等を図るとともに、同僚性を一層高める</p>	<p>③スクールガイドや学校説明会での広報活動の実施、全国募集の周知 ・中学2・3年生を対象としたオープンスクール(年3回)の実施。 ・全国募集周知に向けた中学校訪問(年2回)の実施 ・全国募集対象学校説明会の実施 ④ICT推進委員と協働したICT機器の積極的な活用を推進する ④情報処理機器の管理の徹底</p>	<p>③1月志願状況、募集定員以上。 ④教員アンケート「授業の中でタブレット等のICT機器を活用している」肯定回答率85%以上 ・教員アンケート(1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート)の「一般的な端末の活用指導力」で県全体の項目を上回る。</p>	<p>③ ・早期(5月下旬)にスクールガイドを完成させ広報活動に用いることができた。 ・今年度は、OSの申込期間を長めに設定。(できるだけ中学生が参加計画を立てやすくするため) ・コロナ緩和もあり、8月OS3年参加者266名(昨年度比1.4倍)、9月部活動OS3年参加者72名(昨年度比1.2倍)。福山市内からのOS参加校は5から8校に増加。 ・8月下旬福山で説明会(参加者3名)を実施。一層の周知のため11月に出願の説明も兼ねた学校訪問を実施。 ④ ・端末の修理やメンテナンスの作業に追われ、先生方への校内研修会まで手が回らなかったが、県が開催する研修会へ参加するなどして、苦手な教員もスキルアップしようと努力していた。 ・生徒は授業だけでなく、2大行事の準備で、今まではPC実習室にいかなければならなかった作業が教室でタブレットを使い出来るようになったので助かっていた。 ・教員アンケート(1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート)の「一般的な端末の活用指導力」でほぼすべての項目が県全体の平均を上回っている。</p>	<p>B</p> <p>③ ・オープンスクールは8・9月に3・2年生、10月は全学年を対象として実施。参加者は、8月374人、9月82人、10月67人と多くの中学生が参加し、笠岡商業の魅力伝えることができた。来年度は教職員の負担軽減のために、商業科の協力のもと、講座内容の変更を行う予定。 ・本校教職員・生徒の日頃の活動のおかげで、1月志願状況は、募集定員に対して1.1倍(県内のみ)であった。 ・全国募集のための福山市内中学校(山陽本線・福塩線沿17校)を5月と11月に訪問。全国募集を実施していることは周知されているが、希望者は少数。全国募集説明会も8月末に実施した。来年度は6月下旬に前倒しで実施し、オープンスクール参加者を増やすとともに早期の意識付けをしたい。 ④ ・11月29日に教育情報化推進室 伊藤稔文 指導主事を講師に招き、校内研修会を実施した。また、日頃の声かけや職員間のコミュニケーションにより、困りごと等も解消することができた。1人1台端末導入から数年経ち、先生方のスキルも向上している。その結果は、学校自己評価「今までよりも、もっと有効にICTを活用して授業を行いたい」95.7%(前年度94.4%)にも現れている。 ・教員アンケート(1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート)の「一般的な端末の活用指導力」でほぼすべての項目が県全体の平均を上回っている。</p>
	<p>1年団</p> <p>・朝のSHR、放課後のSHRに必ず2名の担任他でいき、緻密に観察を行い、クラスの生徒理解・情報共有に努める。 ・学年団会議で情報交換をこまめに行い、問題行動の早期発見・未然防止につとめる。 ・良い情報(生徒の各種の頑張り、部活の成果など)は、教員・生徒ともに情報共有を積極的にして、お互いを高目遣う。</p>	<p>・2名の担任で観察することで、より生徒理解・情報共有を深め、問題行動の防止、早期発見になる。 ・学年団会議で情報交換をこまめに行うことで、問題行動の早期発見・未然防止・解決策の提案などにもなる。 ・良い情報(生徒の各種の頑張り、部活の成果など)は、教員・生徒ともに情報共有を積極的にすることで、より学年のチームワークや一体感を増すこととなる。</p>	<p>・学年団会議にて生徒の情報交換が詳しくできており、問題行動等の未然防止ができていた。また、2名の朝礼終礼の運営で生徒の観察もよくできている。 ・心配な生徒には家庭訪問や家庭への電話連絡を積極的に実施し、家庭との連携強化が推進できている。 ・1年生の後半になり、部活動でも成果が出始める時期なので、学年団、部活顧問等の情報共有を密にし、生徒間でも情報共有して、お互いが向上できるような環境づくり、クラス運営を推進していく。 ・資格取得を推進し、将来の進路選択に役立たせることができることを紹介していく(学年集会等を利用して)。 ・地域学習として竹筒美術館の拝観・古城山公園散策を実施し地域を知ることができた。2学期にはカブトガニ博物館等の拝観も実施予定である。</p>	<p>B</p> <p>・学年団会議にて生徒の情報交換が詳しくできており、問題行動等の未然防止ができていた。また、年間を通して2名の朝礼終礼の運営で生徒の観察もよくできていた。心配な生徒には家庭訪問や家庭への電話連絡を積極的に実施し、家庭との連携強化が学年団としてできた。 ・学年団、部活顧問等の部活等の成果情報の共有を密にし、生徒間でも情報共有して、お互いが向上できるような環境づくり、クラス運営を推進していく。 ・資格取得を推進し、将来の進路選択に役立たせることができることを検定結果を交えて紹介していく(学年集会等を利用して)。 ・地域学習の予備学習として竹筒美術館の拝観・古城山公園散策・カブトガニ博物館・ボランティア清掃を実施し、2年次の総合的探究の時間に繋げることができた。</p>
	<p>2年団</p> <p>・生徒の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう学年団の教員で声かけをしていく。 ・学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行う。 ・生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合はすぐに担任に連絡し、必要に応じて学年団で対応する。 ・生徒会行事のリーダーとなる生徒を支援し、クラス・学年を越えたつながりがもてるようにホームルーム活動や生徒会活動を運営する。</p>	<p>・生徒の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう学年団の教員で声かけがができていく。 ・学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行うことができる。 ・生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合はすぐに担任に連絡し、必要に応じて学年団で対応することができている。 ・生徒会行事のリーダーとなる生徒を支援し、クラス・学年を越えたつながりがもてるようにホームルーム活動や生徒会活動を運営することができている。</p>	<p>・定例の学年団会議で、生徒の情報交換を詳しく行い、その後の指導を行うことができていく。 ・「総合的な探究の時間」(週1時間実施)では、笠岡市による出前講座を実施し、現在笠岡市が抱えている課題について学習した(①定住促進・空き家対策 ②リサイクル:環境保全の現在と未来 ③道の駅ベイファーム・産業振興ビジョン)。また、SDGs地域学として、探究活動班に分かれて学校周辺のフィールドワークを行い、笠岡市が抱えている課題について理解を深めた。11月にその活動班でパワーポイントで作成したクラス内で発表する。最後に、各クラスから2つ選ばれた6つの活動班が1・2年生全員の前で発表を行う計画である。 ・文化祭の販売実習では、商品の選定から仕入れまで、そして店舗装飾から当日の販売まで貴重な体験を通して、一人ひとりがリーダーシップを発揮することができた。</p>	<p>B</p> <p>・「総合的な探究の時間」(週1時間実施)では、地域学として地元笠岡市の現状から、現在笠岡市が抱えている問題を分析し、その改善策や解決策についてグループで話し合いを重ね、プレゼンテーション資料をパワーポイントで作成しクラスで発表した。各クラスから選ばれた6グループが体育館で発表した。この探究活動を3年次の課題研究にも続けて取り組んでさらなる成長を期待したい。 ・生徒会会長、副会長、総務7名にすべて立候補者が出て、生徒会活動に積極的に取り組もうとする姿勢が頼もしい生徒が多い。来年度の生徒会活動が楽しみである。</p>
	<p>3年団</p> <p>・学年団内での役割分担や協力体制を意識し、効率的かつ計画的に仕事を進める。 ・日頃のコミュニケーションを大切に共通理解を持って指導にあたる。</p>	<p>・学年団内での役割分担や協力体制を意識し、効率的かつ計画的に仕事を進めるようにしている。 ・日頃のコミュニケーションを大切に共通理解を持って指導にあたっている。 ・進路実現へ向け自学自習の習慣が身につくよう学年団の教員で声かけができていく。</p>	<p>・学年団内での役割分担や協力体制を意識し、効率的かつ計画的に仕事を進められている。 ・日頃のコミュニケーションを大切に共通理解を持って指導にあたっている。 ・進路実現へ向け自学自習の習慣が身につくよう学年団の教員で声かけができていく。</p>	<p>B</p> <p>・学年団会議を計画的効果的にを行い、会議の回数を大幅に減らし、余裕を持って各担当業務を進められるようにした。 ・会議だけでなく、学年団の教員間で日頃のコミュニケーションを大切に、協力して指導にあたることができた。 ・進路課、3年団のみならず全教員に進路コーチや面接練習などの進路指導を行ってもらい、進路のサポートをしっかりとすることができた。</p>
	<p>商業科</p> <p>・笠岡の魅力は「生徒」である。その魅力を前面に出す取り組みを推進する(学校のPRと生徒の成長がある)。 ・働き方改革を意識して教員同士がお互いに声を掛け合い助け合いながら、スムーズに仕事に取り組むことができるよう、協力する。 ・ICT機器を活用することにより様々な情報を共有し、仕事の効率化を図る(DXと働き方改革)。</p>	<p>・出前授業や地域の活動に参加する生徒の人数アップ。 ・各種コンテスト等における大会出場、および上位入賞を果たす(昨年度:県大会上位入賞9件、中国大会2件、全国大会3件、その他3件)。 ・マスコミ掲載回数増(昨年度回数50回:商業に関するもの)。</p>	<p>出前授業10件:参加生徒数18名 地域の活動に積極的に参加(笠SHOP等で44名) 国際交流(マレーシア)に参加する生徒2名 全国大会出場 4件(10月時点) 全国10位 個人7位あり 岡山イノベーションコンテストファイナルステージ出場(10月時点) さんフェア福井2023全国高校生ビジネスアイデアコンテスト出場(10月時点) マスコミ掲載回数:全体で14件(10月時点:新聞掲載が変わったことも原因) 1年生・2年生での学年全体の地域での学習の取組増</p>	<p>A</p> <p>出前授業10件:参加生徒数22名 地域の活動に積極的に参加(笠SHOP等で52名) 国際交流(マレーシア)に参加する生徒2名 全国大会出場 6件(全国10位 個人7位あり) 中国大会出場 2件 岡山イノベーションコンテストファイナルステージ出場 さんフェア福井2023全国高校生ビジネスアイデアコンテスト優秀賞(第2位) 高校生ビジネスプラン・グランプリ 優秀賞(5014件中トップ10) マスコミ掲載回数:全体で25件(1月時点) HPやインスタFacebookで発信増</p>